



東北活性研  
公益財団法人東北活性化研究センター

# 他分野との融合による 農業ビジネスの可能性と課題

～先進事例に学ぶ付加価値創出と持続的展開に向けた示唆～

(公財)東北活性化研究センター 主任研究員 佐藤

TEL:022-222-3394 FAX:022-222-3395

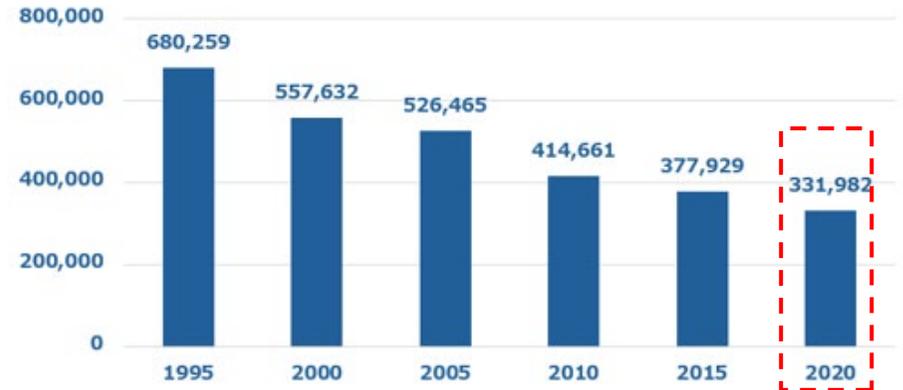
E-mail: [t-sato@kasseiken.jp](mailto:t-sato@kasseiken.jp)

# 調査の背景：東北農業の現在地

- 生産性：2018年以降、**産出額が横ばい**。  
生産農業所得は**減少傾向**。

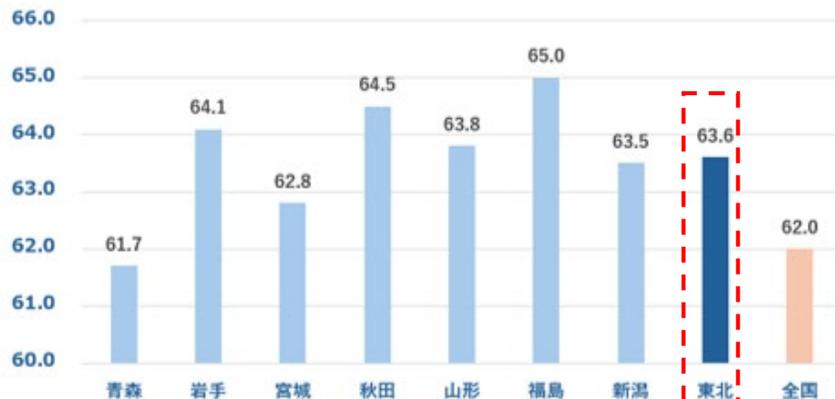
(東北農政局によるデータ) ※新潟県除く  
 農業算出額：2018年⇒14,325億円  
 2023年⇒14,748億円  
 生産農業所得：2018年⇒5,627億円  
 2023年⇒4,862億円

- 東北圏における農業就業者数

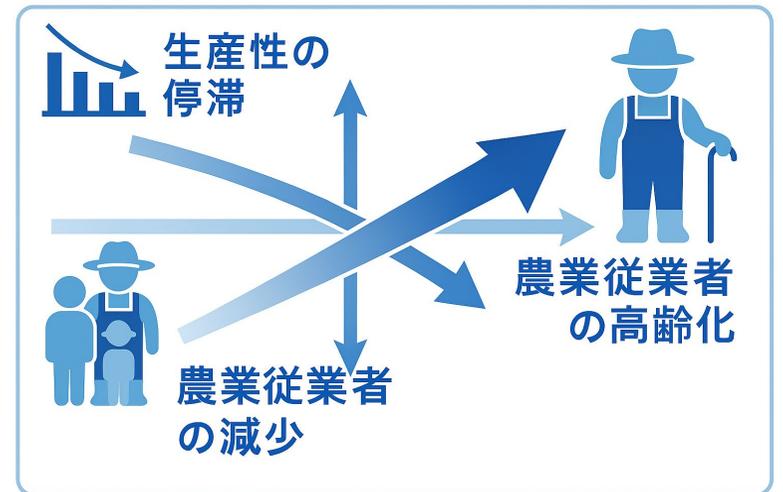


出所：東北圏広域地方計画推進室「東北圏の現況（データ）」より作成

- 2020年 農業就業者の平均年齢



出所：東北圏広域地方計画推進室「東北圏の現況（データ）」より作成



所得確保と労働力確保を同時に実現する戦略転換が不可欠

# これまでの取り組み：6次産業化の現状

## 市場規模は近年横ばい

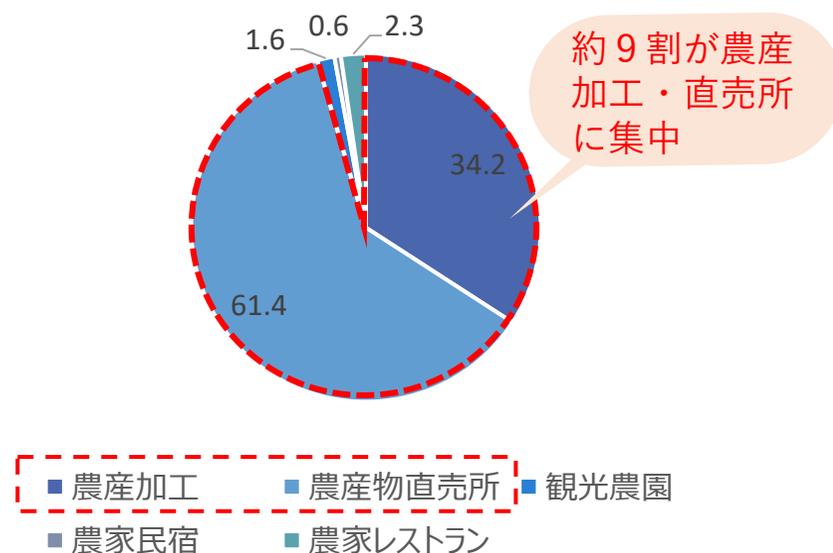
図\_東北圏の農業分野における6次産業化の市場規模  
(億円)



出所：農林水産省「6次産業化総合調査」より作成

## 類似事業者間の競争激化・規模拡大の困難さ

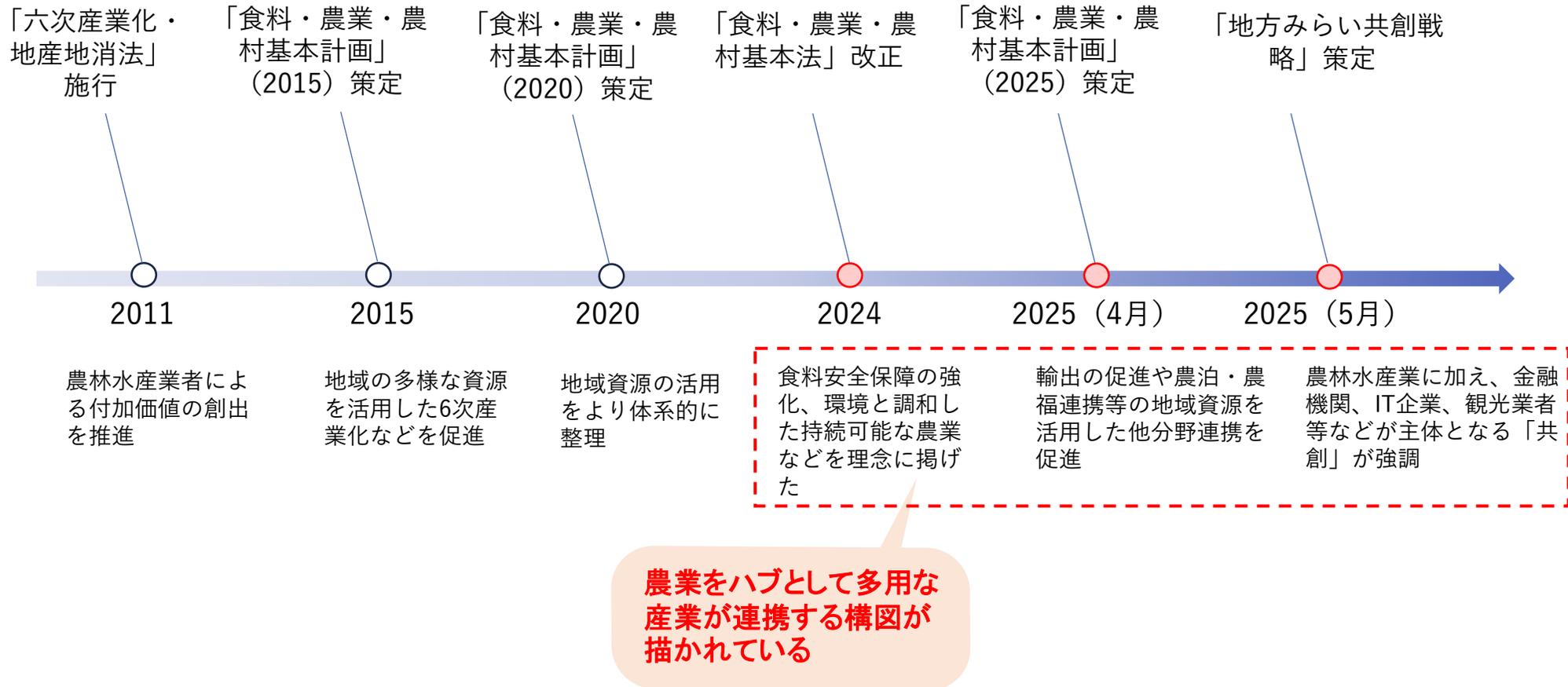
図\_東北圏の農業分野における6次産業化の事業別売上割合



出所：農林水産省「令和5年度 6次産業化総合調査」より作成

従来のやり方での拡大には限界がある

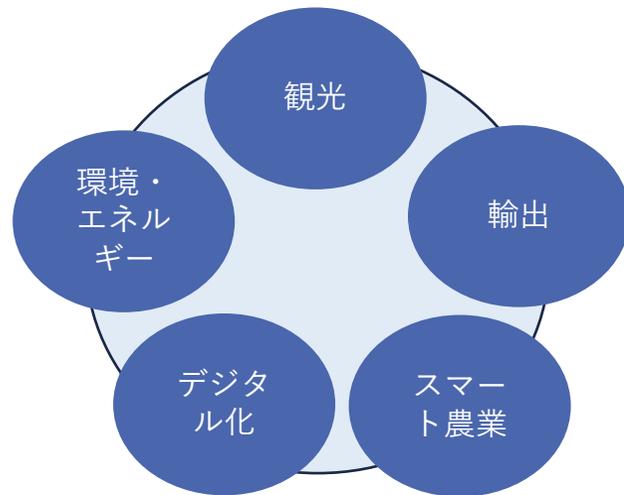
# 政策の動向：6次産業化から他分野融合へ



# 調査テーマ：分野選定の考え方

## 農業の所得確保

今後の農業における  
所得確保・生産性向上の融合分野



外部需要を直接取り込むことが可能な分野を選定

①環境・エネルギー

- ・ 再生可能エネルギー
- ・ カーボンクレジット (Jクレジット)

②観光

- ・ 農泊
- ・ ガストロノミーツーリズム

③輸出

- ・ 輸出

## 農業の労働力確保

新たな労働力のリソースとしてのインパクトが大きい観点から、

- ① 福祉（障害者雇用など） ② 女性活躍 ③ 外国人材を調査テーマに選出

# 先進事例：ヒアリング先

## 他分野融合

テーマ	再生可能エネルギー	カーボンクレジット	農泊	ガストロノミー ツーリズム	輸出
団体	舞台ファーム	フェイガー	遠野ふるさと 体験協議会	鶴岡市	九州農水産物直販
事業の 位置付け	営農とエネルギーを 両立する営農型多角 化事業	営農を環境価値に転 換する制度型事業	農業、農村、観光を 一体で支える地域統 合型観光事業	農業×食文化による 地域ブランディング 観光事業	農家を輸出市場に繋 ぐ販売・流通事業
調査の ポイント	農業所得・エネル ギー活用を同時に実 現する営農型 太陽光発電	水稻栽培における 中干し期間の延長によ るクレジット創出	持続可能な農泊モデ ル	地域一体型ガストロ ノミーツーリズムの 推進	地域を超えた輸出モ デル

## 多様な人材の活躍

テーマ	福祉	外国人材	女性活躍
団体	弘前市	舞台ファーム	やまがた農業女子 ネットワーク
取り組 みの主体	基礎自治体	農業法人	女性農業者が主体と なって活動する地域 グループ
調査の ポイント	農業と福祉の構造的 接続（農福連携）	人口減少を前提とし た中長期の経営戦略 の中核	女性活躍を起点とし た農業経営の持続性 向上

# 事例：ガストロノミーツーリズム（鶴岡市）

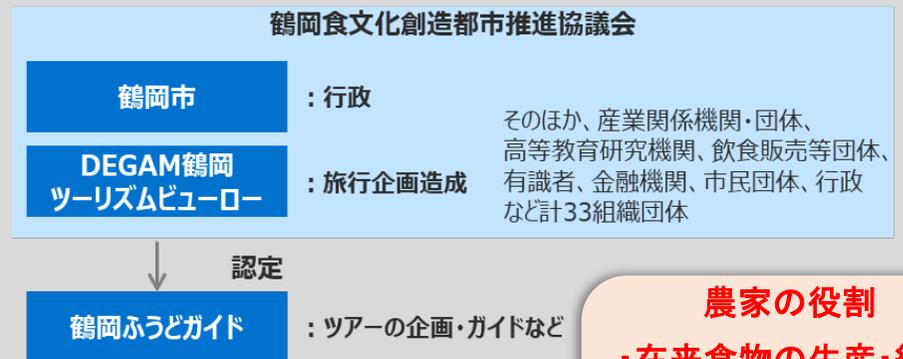
## 農業×食文化×観光による地域ブランディングモデル

### ■ 概要

- 2014年、日本初のユネスコ食文化創造都市に認定
- 2023年、観光庁「地域一体型ガストロノミーツーリズムの推進事業」に採択
- 観光客数：462.5万人（2023年）



↓実施体制↓



### 農家の役割

- ・在来食物の生産・継承
- ・農業体験の受入など

### ■ 事業の成功要因

- 市やDEGAM鶴岡ビューローを中心とした観光における食文化のブランディング
- 市による農業における食文化の振興と保存・継承
- 観光と農業の連携体制の構築

### ■ 事業の課題

- ガストロノミーツーリズムの経済的波及効果の不透明さ
- 農業×観光の収益性の不透明さ
- 農業の生産体制構築・担い手不足などの課題解決

# 先進事例分析：構造的特徴

## 他分野融合

### ① 役割分担の明確化

例：観光における体制構築を協議会、旅行商品造成をDMOが担っている。

【鶴岡市】

例：営農型太陽光発電事業で不可欠な地域での合意形成を同社が担っている。

【舞台ファーム】

### ② 参画しやすい事業設計

例：協議会とDMOがプロモーションなどの観光事業を担い、農家は主として生産を担う役割分担

【鶴岡市】

例：クレジット制度の対応プロセス（認証取得・販売）を事業者、農家は証憑登録などの限定的な作業

【フェイガー】

### ③ 農家と他分野をつなぐ 翻訳・接続機能

例：農業の価値を観光客や消費者に伝える役割を、ふうどガイドや料理人が担っている。

【鶴岡市】

例：海外市場の規格・商習慣を事業者が農家向けに翻訳して伝達

【九州農水産直販】

## 多様な人材の活躍

### ① “農業経営の戦略”として 位置付け

例：福祉対象者の活躍を、農業全般における慢性的な労働力不足への対応実現

【弘前市】

例：外国人材を事業拡大の戦略として取り込む

【舞台ファーム】

### ② 人材活躍を支える仕組みを 組織的に整備（役割分担）

例：福祉事業者とのマッチング体制やマニュアル整備

【弘前市】

例：ネットワーク自体が相談・情報共有・学習の場として機能し、個々の農業者が孤立せずに活動できる環境を整備。

【やまがた農業女子ネットワーク】

# 先進事例から浮かび上がる今後の支援策



先進事例の構造から浮かび  
上がる共通の課題

↓一般農家の視点で考えた場合の課題↓

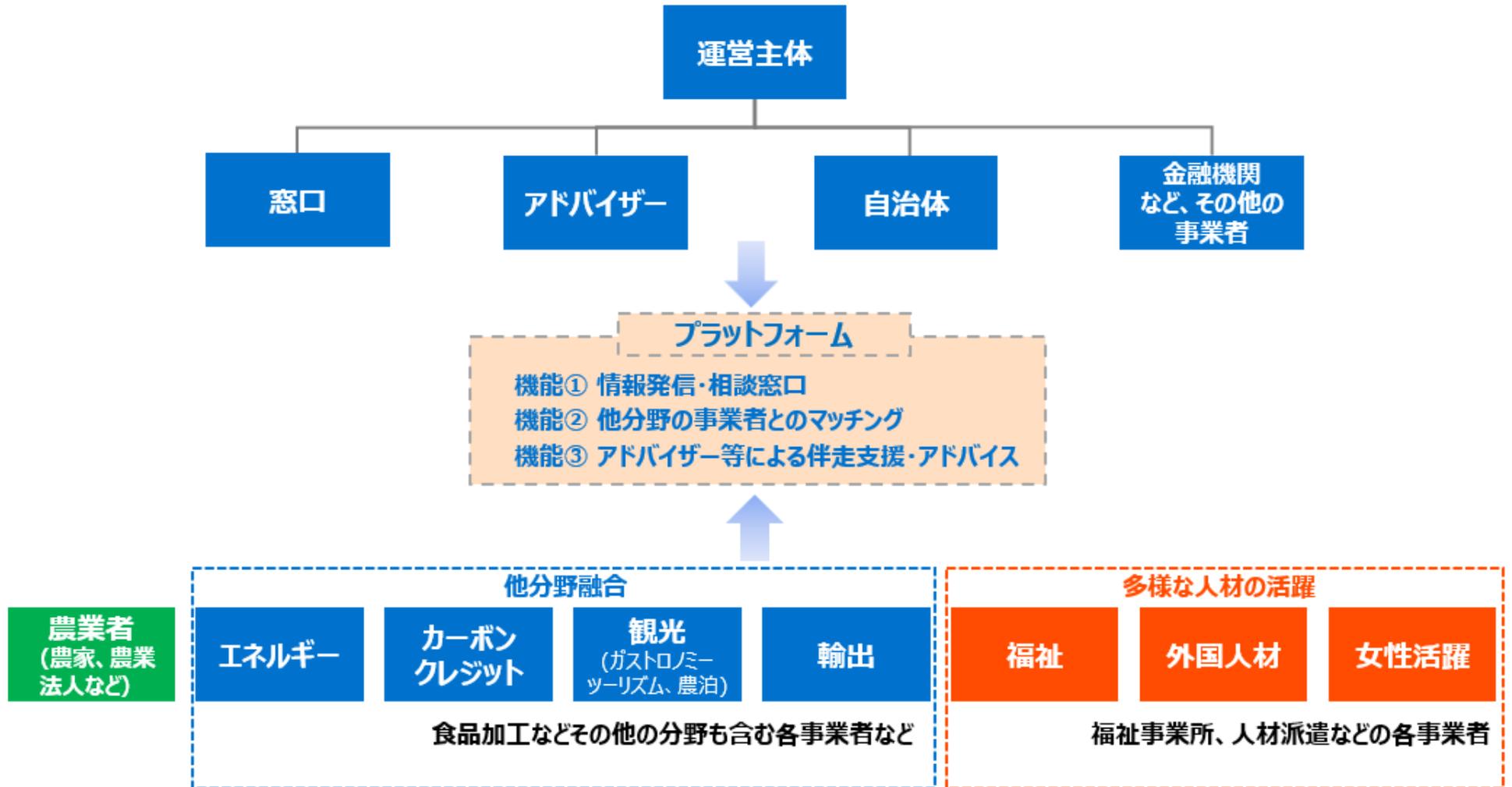
- 農家への他分野の事業の認知拡大・理解醸成・マッチング不足
- ノウハウの属人化と事業化・定着のハードルの高さ
- 支援策等に関する農家への情報の分散



求められる支援（機能）

- 農家と他分野の事業者や人材を結び付ける**マッチング機能**
- 事業構想や人材育成・定着を支える**伴走型の支援・アドバイス機能**
- 認知拡大や理解醸成、制度・支援策の整理・提示のための**情報共有・窓口機能**

# 「東北版農業分野融合プラットフォーム」の構築



# プラットフォームを実装・定着させるための現実的ステップ

## ステップ1

モデル案件創出型フェーズ  
(立ち上げ期)

動く案件を確実に創出

- 意欲のある農家・地域を数件選定
- 他分野事業者や人材、関係機関をマッチング
- 事業から実装までを集中的に伴走支援

## ステップ2

参加型・拡張フェーズ  
(展開期)

成功事例を広げて展開

- モデル案件について、事業化までのプロセスを簡潔に整理
- 他地域の農家や事業者が参照可能な形で可視化

## ステップ3

自走・定着フェーズ  
(成熟期)

民間主体で持続的運営

- 他分野の事業者や金融機関による参画・出資
- 成功事例を活用した新たな事業の創出
- 人材育成やノウハウ共有の仕組み化

国の行政機関が主導

段階的に機能を積み上げ、地域の経済活動に根付かせる



## 他分野との融合による農業ビジネスの可能性と課題

～他分野融合と多様な人材の活躍を支える  
「東北版農業他分野融合プラットフォーム」の構築に向けて～

調査報告書  
2026年3月  
刊行



公益財団法人  
東北活性化研究センター  
<https://www.kasseiken.jp/>

